

## 連続する不揃いな縁

### 01 二つの都心核をつなぐ

コンパクトシティの成功事例としてしばしば取り上げられる富山県富山市。富山駅と商業の中心地である総曲輪を繋いだ環状線は、二つの賑わいを繋ぐ媒体として有効的に機能している。その二つのエリアに挟まれた場所は県庁と市役所が集約された行政の中心地となっており、松川べりや富山城など観光資源も豊富であるが、地域住民や周辺の従業者の日常の中では魅力に乏しい場所になっている。今回の提案は二つの賑わいの間に中継地としての賑わいを創出し、歩いて巡りたくなるような魅力の連続を作る計画である。



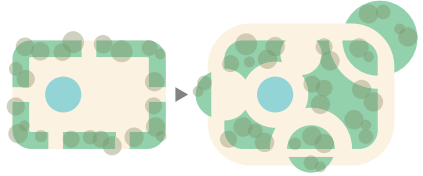
### 02 小さな円の連続

富山市が目指すコンパクトなまちづくりの計画は、地域の拠点を「お団子」、公共交通を「串」に見立てた「お団子と串」の都市構想を掲げている。この考え方を元に、県庁エリア内の計画ではまずかけ通りと城址大通りとを結び「富山県公園線」を串として、周りに小さな活動場所を連続させることで、「小さなお団子と串」を作る。それぞれのお団子には、様々な交流や活動を促す機能を持たせつつ、それぞれが緩やかに干渉しあう仕掛けを作る事で、二つの都心核に並ぶ大きなお団子を県庁エリアに作り出す。



### 03 外にひらくための構え

現状の県庁周辺の計画は敷地を縁のように植栽帯が配置されており、周りからの視認性に乏しく暗い印象となってしまう。これを解消するため、敷地の外側に積極的にスペースを設け敷地内に入り混じるように植栽帯を配することで、外からの視認性を確保した明るい森林のような空間を作っていく。さらに、周辺の敷地や道を巻き込んだ外構計画とすることで、複数の敷地をまたいだ一体的な空間を作り出すことが出来る。エリア全体の統一された外構計画は、手を入れる範囲が小さい敷地にも恩恵をもたらし周辺地域にも伝播していく。



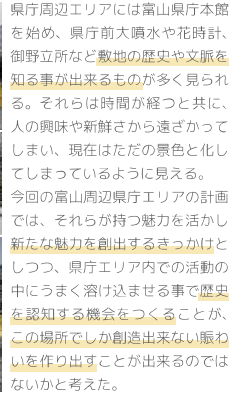
### 04 乗る。借りる。歩く。

富山駅の南側エリアには路面電車やバスなどの公共交通機関が充実していることに加え、レンタルサイクルのシステムも充実しており、車を持たない人も移動しやすい町となっている。しかし、駐輪場に関しては駅周辺と総曲輪以外には整備されておらず、家庭用の自転車を利用する人にとっては不便な状況である。今後車を自由に使えない人の数が増えていくこと、人口減少による公共交通の衰退を想定した場合、駐輪場などの移動拠点の設置を進めていく必要があるのではないかと考える。県庁周辺エリアでは駐輪場や自転車整備スペースの設置、とほ活アプリとの連携スポットの配置など、車を自由に使えない人が住みやすい地域づくりを促していくきっかけを作り出し、二つの都心核を繋ぐ中継地としての役割を担うことが今後の住みやすいまちづくりに繋がっていくのではないかと考えた。



### 05 もとある魅力を活かす

県庁周辺エリアには富山県庁本館を始め、県庁前大噴水や花時計、御野立所など敷地の歴史や文脈を知る事が出来るものが多く見られる。それらは時間が経つと共に、人の興味や新鮮さから遠ざかってしまい、現在はただの景色と化してしまっているように見える。今回の富山周辺県庁エリアの計画では、それらが持つ魅力を活かし新たな魅力を創出するきっかけとして、県庁エリア内での活動の中にうまく掛け込ませる事で歴史を認知する機会をつくること、この場所でしか創出出来ない賑わいを作り出すことが出来るのではないかと考えた。



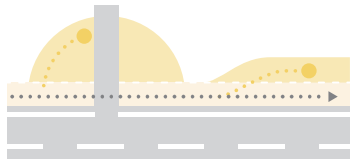
### 01-1 見える魅力

歩いて巡りたくなるような仕掛けを作る上で大切なのは“見える”こと。路面電車の車窓、車の窓、歩いている時に目に飛び込んでくる仕掛けが人を呼び込む。そのような考えの元、今回の計画では、“連続する不揃いの円”を県庁周辺エリアのアイコンとして全体のトータルデザインを行っていく。



### 03-1 立ち寄れる設え

敷地と道が接する部分には立ち寄ってもらえる為の仕掛けとして“道に開いたスペース”を散在させている。これらの空間は歩道と同じ舗装を用いており、歩道の延長として認知してもらえらるよう設えた。この場所には地域の掲示板、休憩用のベンチ、駐輪スペースなどふらっと入り込める要素を配置している。



県庁前駅も県庁周辺エリアと揃えたデザインのものに。降車の目印となる。



路面電車内から見える景色。公園内の様子やアイコンとなる屋根が見える。



みちに沿う休憩所。歩くことを楽しめる町に。



富山県庁本館

県庁前ひろば

公園の賑わいを県庁まで引き込む広場。イベント時は案内所や県民ブースなどに。

エリア内の外構計画は、道から中の様子が見えやすいように計画。開いた公園に。

花時計

県議会議事堂

すずかけ通りひろば

歩く人を誘引するようにひらく広場。掲示板を備えてイベントなどの情報の場に。

道のきゆうけいじょ

道に沿う休憩所。備えられたベンチの他に地域住民が椅子を持ちよって憩う場所。

普段は利用者の日よけとして、イベント時は屋上やポップアップショップの屋根に。

県庁前大ふんすい

路面電車から見える屋根の連続。公園のアイコンとして道沿いにたすむ。

公園のいりぐち

県庁前えき

### 02-1 小さなことがらの連続と屋根

“連続する不揃いの円”。それはこの場所を利用する人の活動とその関わりを現わしており、それぞれが不揃いに重なりあっている。その円の上下またはその周りに出来る空間は、人々の活動を補助する役割を担い、人々の交流、遊び、買い、日常などが入り混じった大きな円を形成する舞台装置となる。それらはこのエリアに新しい象徴を造り出し、様々な活動を包摂する大きな求心力を造り出すことが出来る。



県庁と公園をつなぐ広場。県庁敷地内の外構を調整し公園から本館が見えやすいように。



### 03-2 敷地をまたぐ外構計画

県庁本館がある敷地と県庁前公園の敷地をまたぐように緑地帯を配置し、公園側の賑わいを県庁側へ取り込めるような計画とした。既存の樹木を一部移動し公園側から県庁が見えるようにすることで、公園での活動の中に馴染んでいく。



### 02-2 活動を誘致する

大噴水の周りに配置された屋根はイベント時の装置として利用されることを想定している。富山まつりやポップアップショップ、見本市やフリーマーケットなど県内外の多様なプレイヤーが集まる機会を作る事が出来る。噴水を背景に建ち並ぶ屋台と屋根は、イベント自体の魅力以上に人々を惹きつける。



噴水を中心に憩う地域住民や従業者



富山まつりにて噴水を背景に並ぶ屋台



富山県民会館

城址大通りひろば

安心のにわ

柵で囲まれた庭は、ドッグランや小さい子供の遊び場として利用される。

街中のぶたい

イベント時は特設ステージとして、通常時は子供たちが走り回る広場として。

サイクルスポット

みんなのトイレ

既存の公衆トイレの配管を生かして新設。防災備蓄倉庫を併設し災害時の拠点に。

県庁前だいふんすい

### 02-3 木育の場として

現状の足を踏み入れる事ができない緑地帯は、すべて地面とフラットな緑地とすることで、子供たちが走り回れる芝生空間とした。木や植物に直接触れることが出来る木育の場としての設えを県庁前に作る。



### 05-1 歴史を明るく照らす

緑地帯を子供たちが走り回れる空間にすると共に、殉職警察官之碑、御野立所、横江嘉純作のブロンズ象など緑地帯に埋もれていた史跡を表出させる。公園での活動の中に歴史を知る機会を近づける。



公衆トイレは周りにひらく明るい印象のものに。待ち時間を過ごすベンチも併設。

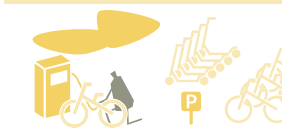


イベントステージとして作られる舞台は、子供たちが走り回る広場としても。



### 04-1 サイクルスポット

城址大通り側に設置された駐輪場には、レンタルサイクルステーションや空気入れなどが備えられた整備スペースを設置し移動拠点として設える。西は路面電車、東は自転車、2種類の間口によってこのエリアに立ち寄ってもらうきっかけを作り出す。



### 02-4 安心できる場所を

様々な人が公園を利用出来るように、柵で囲われた空間も設けている。子供連れやペット、園児たちなど、外で安全に自由に走り回れる空間を設ける事で、一緒にきた保護者も安心して過ごすことが出来る。



日替わりでドッグランや子供たちの遊び場に変化する。

